

【AIは介護をどう救うか】

生成AIで変わる介護の未来！ ～現場職員が主導する生成AIプロジェクト～

日本基準寝具株式会社では、介護現場の最前線で働く職員自らが生成AIを活用し、業務プロセスの抜本的な改善を行う「ボトムアップ型DXプロジェクト」を推進しております。本プロジェクトは、トップダウンのツール導入ではなく、現場職員が課題抽出からAI実装までを主導しております。

昨年10月から11月にかけて行った研修を経て、各部署のプロジェクトチームが「業務効率化とサービスの質向上」を両立させる具体的な施策を策定しました。月1回の共有会を経て結実した成果を、2026年8月の期の節目に表彰式を行います。



【背景：現場の課題への着目と挑戦】

現在、介護業界ではDXの必要性が叫ばれる一方、ITツールを現場がいかに使いこなすかという「実装」のフェーズで多くの企業が課題を抱えています。当社では、汎用的なツールの導入にとどまらず、現場を最も知る職員自らが「どの業務にAIを組み込むべきか」を主体的に考える体制を構築。

月1回の共有会を通じて、「このプロンプトで作業時間が15分短縮できた」「思うような成果が得られない」といった『小さな成功』や『失敗事例』を包み隠さず共有。

試行錯誤と失敗を繰り返しながら、現場の課題を解消する独自のワークフローを磨き上げています。



【本取り組みを通して目指す未来】

本プロジェクトの真の目的は、単なる時間削減（ROI）ではありません。AIによって生み出された余剰時間を、ご利用者様や中間ユーザーの声に耳を傾ける「人間にしかできないこと」に充当することにあります。現場主導で生まれるこのDXモデルは、深刻な人手不足に悩む介護業界において、職員のウェルビーイングとサービスの質を同時に高める解になると考えています。

●持続的な企業成長の土壌づくり

生産性向上と、次世代を担う若手人材の育成を同時に実現します。

●業界における先進的ポジションの確立

生成AIの活用を業界に先駆けて推進し、業界のレベルアップに貢献します。

●ご利用者様への貢献

業務効率化によって生まれた時間を、より質の高いサービス提供に繋がめます。

【現場主導DXへのこだわり】

本プロジェクトリーダーの横山佑太（取締役副社長）は、先述の通り、「トップダウンのAIツール導入では現場は動かない。現場の第一線で動く社員自らが考え、AIについて学習し、実装することが重要。」と語っており、真のDXは、『現場主導』であることに強いこだわりを持ち進めております。



【今後の展望】

2026年8月の期の節目に、これらのプロジェクトの中から最も実効性高く、横展開が期待される取組みを表彰いたします。

当社は、AIによる効率化で生み出された余剰時間を、ご利用者様・中間ユーザーとの直接的なコミュニケーションという「人間にしかできない価値」に再投資することで、介護現場のウェルビーイング向上と持続可能なサービス実現を目指してまいります。

当社は、「いくつ歳を重ねても、住み慣れた地域で、安心して笑顔でくらすサービスを提供しつづける」という理念のもと、安心して笑顔で生活していただくための支援を目的に、ご高齢者様のくらし全般の支援を行っております。

福祉用具貸与事業所を中心に、デイサービス、訪問介護、訪問看護などの在宅介護サービスから、生活支援事業、住環境支援まで、幅広いサービスを提供しております。

【本件に関するお問合せ】

日本基準寝具株式会社

エコール事業部 広報担当：深井、戸田

〒731-0124 広島県広島市安佐南区大町東1-18-44

TEL:082-877-1079

Mail：public@nihonkijun.jp